宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2022

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

終戦から77年、全国戦没者追悼式

天皇陛下、追悼と平和を祈るおことば

終戦後77年を迎えた今年8月15日、東京都千代田区の日本武道館で全国戦没者追悼式が開催された。当日は、天皇皇后両陛下が御臨席され、岸田文雄内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、各国務大臣、各都道府県代表、関係団体の代表ら合わせて約千人が参列し、約310万人を数える全戦没者に追悼の誠を捧げた。

黙祷を捧げられる天皇皇后両陛下=8月15日、東京都千代田区の日本武道館

午前11時51分、開会が宣言され、全員が起立して両陛下を迎える。国歌斉唱に続き、岸田文雄内閣総理大臣が式辞を述べた。

「祖国の行く末を案じ、家族の幸せを願いながら、戦場に斃れた方々。戦後、遠い異郷の地で亡くなられた方々。広島や長崎での原爆投下、各都市での爆撃、沖縄における地上戦など、戦乱の渦に巻き込まれ犠牲となられた方々。今、すべての御霊の御前に心よりお祈り申し上げる。今日の平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであることを、私たちは片時たりとも忘れない。戦後、我が国は、一貫して、平和国家としてその歩みを進め、歴史の教訓を深く胸に刻み、世界の平和と繁栄に力を尽くしてきた。戦争の惨禍を二度と繰り返さない決然たる誓いをこれからも貫いていく。我が国は、国際社会と力を合わせながら、世界が直面する様々な課題の解決に、全力で取り組んでいく。今を生きる世代、明日を生きる世代のために国の未来を切り拓いていく。戦没者の御霊に平安を、ご遺族の皆様にはご多幸を、心よりお祈りする」

両陛下は標柱の前に進み深く一礼された。正午の時報に合わせ二分間の黙祷を捧げられ、両陛下に合わせ、参列者が同様に黙祷を捧げた。

天皇陛下が「おことば」を述べられた。

「本日、『戦没者を追悼し平和を祈念する日』に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。終戦以来77年、人々のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

私たちは今、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による様々な困難に直面していますが、私たち皆が心を一つにし、力を合わせてこの難しい状況を乗り越え、今後とも、人々の幸せと平和を希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」

細田博之衆議院議長、尾辻秀久参議院議長、戸倉三郎最高裁判所長官の追悼の辞の後、昭和13年11月に中国で戦死した、大月克己陸軍伍長の子・大月健一氏が遺族代表として追悼の辞を述べた。

「戦後の混乱の中で私たちは多くの困難に直面し、一家の大黒柱となざるを得なかった母は、私たちを守り育ててくれた。今日の我が国は平和と自由を享受しているが、それは精魂込めて戦い、散華された戦没者の犠牲の上であることを忘れない。世界の恒久平和実現に向けて、戦争の悲惨さと平和の尊さを訴え続けることを誓霊に誓う」

献花となり、岸田総理はじめ参列者が戦没者に黄色菊を捧げた。最後に加藤勝信厚生労働大臣が献花して、式典は滞りなく終了した。

灯

「悪い実のなる良い木はないし、また良い実のなる悪い木もない。木はそれぞれ、その実でわかる。…わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。わたしのもとにきて、わたしの言葉を聞いて行う者が、何に似ているか、あなたがたに教えよう。それは、地を深く掘り、岩の上に土台をすえて家を建てる人に似ている。洪水が出て激流がその家に押し寄せてきても、それを揺り動かすことはできない。よく建ててあるからである。」（ルカ6：43、46―48）

400年前の9月10日、長崎・西坂の丘で55名のキリシタンが火刑と斬首に処せられた。日本26聖人殉教から25年後のこと。その中には、日本人初のカトリック司祭・バスチャン木村もいた。元和の大殉教は将軍徳川秀忠により推し進められた。その後も、江戸幕府のキリシタン弾圧は強まり、彼らの行動は監視された。各地で「邪教」の取り締まりが強化されていく。それにもかかわらずキリシタンのゆるぎない信仰は守られ、何代にわたっても受け継がれていくことになる。（T）

天地

今年の稲作で一番悩まされているのが雑草のヒレタゴボウ。別名アメリカミズキンバイと呼ばれるアメリカ原産の帰化植物で、家畜の飼料に混じって入ってきたのだろう。長く張る白い根を折ると、ゴボウの匂いがした▼苗が伸びるのに少し遅れて育ち、黄色い花を咲かせて気付くことになる。手で簡単に抜けるのだが、一面に広がると手に負えない。稲刈りまで放置すると、芯が固くなり、コンバインでの刈り取りが不可能になってしまう。しかも、硬い茎がコメに混じり、不良品になる▼散布すれば枯れる除草剤もあるのだが、収穫前50日までしか使えず、枯らした後からも生えてくるのが困る。種は黄な粉のように細かく、さやに無数に入っているからだ▼もう一つは一年草なのに木のようなクサネム。黒く熟した実がコメに混じると不良品になるので、刈り取り前に除去しないといけない。これに聞く除草剤はなく、ひたすら手で抜き、カマで切るしかない▼両者に比べたら、昔からあるヒエはコンバインで除去できるので、比較的扱いやすい。もっとも、田一面にヒエが広がると、米農家としてみっともない▼来年から心配なのがジャンボタニシ。正式名称はスクミリンゴガイでタニシではない。原産地は南米で、台湾から食用に導入されたのが、苗を食い荒らす有害種になった。薬品も開発されているが、特効薬はない。まだ食害は出ていないが、時間の問題だと危機感を募らせている。米価は下落するし、米作りは楽しいが、楽じゃない。

「困難越え人々の幸せ希求」

社説

空海とスピノザ―神仏即自然

空海における神仏習合を考えていて、ふと汎神論で知られるスピノザの思想と共鳴するのに気付いた。17世紀、オランダ・アムステルダムのユダヤ人居住区に生まれたスピノザは、生前に出した『神学・政治論』が無神論の著とされ、ユダヤ教会とカトリック教会からも破門されたが、44歳での没後にまとめられた『エチカ』が西洋哲学史上最高の著と評価されている。

スピノザが『エチカ』で説いたのは、隷属から自由へ、自由から幸福へ至る道。無限の神は宇宙そのものであり、人間をはじめすべての存在は神の中にあるとする。それゆえ、有限の人間に無限を希求する本性が宿っているのだろう。神の現れとして能動的に生きるとき、人は自由を感じ、それが幸福に至る道となる。

即身成仏

松長有慶師は近著『空海』（岩波新書）で、空海の思想を「瑜伽に始まり瑜伽に終わる。つまり空海の現世が、無限性と常につながりをもつ」と端的に説明している。瑜伽とはインド古来の瞑想、座禅、禅定のことで、晩年の空海は高野山の自然の中でそうしながら、死を迎えたことから、「今も生きて衆生の救いのために働いていてくださる」という大師信仰を生んだ。四国遍路もその表現の一つである。

空海という名前自体が、無限へのあこがれを示している。有限の私が、どうして無限を認識できるのか。それは私が無限の自然から生まれたからで、真言密教の阿字観によりそれを実感でき、真言密教では、それを「阿字のふるさとに還る」と美しく表現する。サンスクリット語では、言葉の最初の一字「a」が全体の意味を象徴的に具えていると見るところから、「阿」の一字をひたすら想念すれば、無限世界につながるという。

密教という仏教の最終ランナーが目指したのがその世界であり、インド古来のヒンズー教の神々も取り込んだことから、神仏習合はすでにインドで始まり、中国では道教や儒教と習合し、日本に渡来して神道と出会う。その密教の教義を初めて体系化し、かつ実践したのが空海である。即身成仏の思想はインドの仏教にも見られるが、それが実現したのは日本においてだった。インドや中国、朝鮮では迫害のため失われた密教の教義と生き方が、日本では高野山を中心に、今も守られ、研鑽されている。

空海の誓願は永遠に続く衆生救済の活動で、自身の内面を探究しながら、ひたすら衆生救済にいそしむ生涯だった。四国遍路を体験した外国人が、その印象として挙げた言葉で一番多いのが「ライフ（人生、生き方）」だった。つまり、倫理（エチカ）である。ひたすら歩くことで、人々は自然と一つになり、そこから生き方を見直していく。

永続的な衆生済度は親鸞の還相廻向に似ており、資本主義の倫理を生んだとされるカルビンの二重予定説に通じる。浄土で救われた身で現世に戻り、人々に尽くすというのは、救いが予定された身であることをあかすため、勤勉に働くのと符合している。いずれも人間の感情レベルの話で、空海もスピノザも感情や欲望を重視した。

倫理の基本である善悪について、スピノザは組み合わせだとする。例えば、高カロリーの食品はアスリートには善だが、普通の人には肥満の原因となる。しかも、善悪は好き嫌いで判断できるという。これは、善の中にも悪があり、悪の中にも善があるとする仏教の善悪観に通じる。善を行えば心が喜ぶのは東西同じである。

スピノザ研究の第一人者である國分功一郎東京工業大学教授は、「ありえたかもしれない、もうひとつの近代」をスピノザの思想に発見し、デカルトの二元論の限界状況を露呈している現代社会に対し、少し見直してみよう、と提案している。

無限の感謝

空海とスピノザに共通しているのは、自然への限りない感謝で、それは日本人の原恩主義に通じる。その気持ち、感情が根底にあるので、善いことの実践に意欲がわく。そうした生き方が、私たちに自由をもたらすのである。歩き遍路の人たちも、同じ気持ちを味わったのだろう。

空海の即身成仏を、庶民にも分かりやすい阿弥陀如来への信仰、念仏で到達しようとしたのが法然や親鸞だとすれば、神仏即自然の思想が日本で底辺の人たちにも浸透していった経緯が理解できよう。そんな日本人の信仰の歴史を見直したい。

奈良の大仏さま、きれいに

東大寺で3年ぶり「お身ぬぐい」

ゴンドラも使って大仏のお身ぬぐい

奈良市の東大寺大仏殿で8月7日早朝から「奈良の大仏さま」で親しまれている国宝の本尊・盧舎那仏（るしゃなぶつ）の表面についたほこりを払う「お身ぬぐい」が、3年ぶりに行われた。コロナ禍で2年続けて中止になっていたため、ところによってはかなりほこりが積もっていた。この日、参拝した人たちは、珍しい光景を見守りながら、写真に収めていた。

参加したのは僧侶や職員、応募した関係者ら約140人。二月堂湯屋で身を清め、白装束になって大仏殿に集まり、午前7時から、大仏の魂をいったん抜く法要が営まれた。

続いて、窓や扉が開け放たれ、高さ約15メートルの大仏の頭の先から膝下まで、大仏の手や膝に登って布巾で拭いたり、はたきを振ったりしながら、約2時間かけて清めた。届かないところは天井から吊るした3基のゴンドラに乗っての作業で、隅々まできれいに。下から見上げていると、みるみるきれいになっていく。大仏に乗るのはとびなどの専門職や比較的若い人たちで、高齢者は下回りの掃除に汗を流していた。堂内の屋根のほこりを払う人たちもいて、はたきに使われた布は、古い鈴紐を解いたもののリサイクルという。

お身拭いの終了後、放水銃やドレンチャーの放水試験も行われ、見物者を楽しませていた。

橋村公英別当は「コロナウイルスに感染する人が増えている中、何とかお身拭いが実現できるようになった。毎日、感染拡大を鎮めるために祈願しているので、3年ぶりに大仏さまもきれいになってもらえればうれしい」と喜んでいた。大仏造立の要因の一つになったのも、当時の天然痘の流行を鎮めるため。聖武天皇の強い願いで実現。「そんな歴史を思い出しながら、大仏の前で祈っていきたい」と語った。

大仏の魂を抜く法要

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二 東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纒向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
（定価：本体2000円＋税）
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
四六判296頁（本体1500円＋税）
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな苦では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
補陀洛信仰の研究
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
弘法大師聖句集成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554